

## 千葉大学附属図書館・亥鼻分館

「来歴と概要」 当分館は千葉大学医学部など亥鼻地区に所在する部局をサービスタ対象とする図書館で、その蔵書を蔵書印で見ると県立千葉医学校(明治十五年)から現在のものまで多くの医書を見ることができるとある。

なかでも当分館には江戸時代以来の古医書とそれに関連する古文書が数多く蒐集されている。これは当医学部の眼科教授であった伊藤弥恵治氏が将来「医史学」を研究しようとして、大正五年から退職される昭和二十四年までに蒐集された古医書類で、此の間関東大震災(大正十二年)と太平洋戦争下の千葉空襲(昭和二十年)の二度の災害があったが幸い被害を受けずに、ずっと保存された。これに加えて茂原市の眼科医千葉弥次馬氏と佐倉順天堂の佐藤恒二氏の旧蔵書等が寄贈されて当館の古医書の内容を質・量ともに豊富なものとしている。

それらをざっと整理して見ると、和漢書五、四二〇冊、洋書七七冊が現在進行中の蔵書集計である。またこのような古医書以外に、「医事史料」として『玉碎臓図』の副本とされる全く同じ内容の『女体解剖図』、石坂宗哲の『栄・衛図』、洋書ではポンペが松本良順に贈った(二人のサインが入っ

ている)ジツヘル著の『眼病図譜』等々がある。

こうした当館の貴重古医書類は「図書総目録」や「医学古書目録」にも入っていないものが多い。これは当館のコレクションに関するしつかりした目録が出ていなかったことがひとつの原因であったと思われる。

当館の目録としては、昭和五十六年に刊行された「医学古書目録・予備版」(全二五頁)があるだけであったが、平成五年、当時の橘正道教授(亥鼻分館長)の下で、古医書及貴重書の整理と目録作成がすゝめられ平成十二年二月付で「千葉大学附属図書館亥鼻分館所蔵・古書コレクション目録」(全二八六頁)中間版を刊行し、現在完成版刊行への作業がすゝめられている。

「利用方法」 閲覧時間は平日 午前九時～午後五時、遠方の方は事前に日時を告げて申しこまれた方が確実、資料の貸出しは行っていません。

「交通案内並びに通信先」 JR千葉駅より京成バス(大病院行、又は南矢作行、川戸行)、千葉大学医学部入口下車 千二六〇一八六七 千葉市中央区亥鼻一〇八〇一

TEL 〇四三一一二二六―二二二一  
FAX 〇四三一一二二六―二二二四

(樋口誠太郎)